

トヨタ財団国際助成プロジェクト「ポスト・コロナ禍の共生社会に向けたインドネシア・マレーシア・日本における対話と協働を通じたグローバル市民性教育」(GEMプロジェクト)



草薙佳奈子 東京大学大学院教育学研究科附属 学校教育高度化・効果検証センター 助教

トヨタ財団の国際助成プロジェクト「ポスト・コロナ禍の共生社会に向けたインドネシア・マレーシア・日本における対話と協働を通じたグローバル市民性教育」(通称：GEM プロジェクト)が2020年11月から実施されています。本プロジェクトは、コロナ禍という同じ体験を、異なる視点から捉えることで、多文化共生社会に必要な社会性・市民性と直結した活動体験を提供し、3カ国の交流を通じて、異なる視点を持つ人々と触れ合い、経済指標だけでは測れない「豊かさ」について学び合う、国際理解教育体験の場を提供することを目的としています。

GEMプロジェクトは、子供たちに対話と協働の機会を提供することで、エンパシー(共感力)と呼ばれる他者の視点や気持ちを理解し、主体的に問題解決に取り組む「グローバル市民」の育成を目指しています。また、保護者や地域住民も含めた参加型アプローチを通して、子供たちが大人との対話・協働をすることで、地域の問題解決に取り組めます。さらに、国を超えて異なる生き立ちや価値観を持つ人々と学び、協働する国際交流の場を提供します。国際交流のテーマは、社会的・情緒的学習、オンライン教育、保護者・地域と学校との連携などです。

プロジェクト代表の草薙佳奈子(東京大学)、アドバイザーの恒吉僚子(文京学院大学副学長)、日本代表の南部和彦(文京学院大学教授)、インドネシア代表のTatang Suratno(インドネシア教育大学セラン校)、マレーシア代表のMastura Badzis(マレーシア国際イスラム大学)が3カ国の協力校とともに学びながら、「グローバル市民」の育成を目指した全人的教育の実践とその交流を行っています。日本からは目黒区立原町小学校、稲城市立長峰小学校、西武学園かまくら幼稚園(鎌倉市)、品川区立三木小学校、大田区立入新井第二小学校、大田区立南六郷小学校、世田谷区立玉川小学校に協力校として活動していただいています。

3カ国の協力校では、日本の特別活動、インドネシアの「バンドン・マサギ」(宗教を愛すること、文化を大切にすること、国を守ること、環境を愛すること)の4つの側面を大事にした人格教育)、マレーシアの「ラーマー教育」(イスラム教の教えに基づく慈悲、優しさ、親切、思いやりの心を大切にされた人格教育)と異なる全人的教育アプローチを用いた先進的な教育活動が行われています。



2020年12月～2021年2月には3回のオンラインワークショップを開催し、3カ国(日本・マレーシア・インドネシア)から延べ250名の参加がありました。第1回・第2回は学校の再開に向けて、日本のポストコロナの学校運営や、学校行事運営が紹介されました。2020年初頭から現在に至るまで、新型コロナウイルスのパンデミックが続き、学校生活に影響を受けています。学校は長期休校になり、仮に日本のように学校が再開したとしても学校生活は変化し、多くの活動が制限されることとなります。このような背景から、第3回はこのパンデミックの中でオンライン学習が行われたときに、どのように思いやりや共感を得られるかに焦点を当て、活発な質疑応答が行われたワークショップとなりました。

本プロジェクトでは3カ国の「グローバル市民性教育」に関心を持つ日本の教員の先生方のご参加をお待ちしております。

発行/国際教師力研究会

<https://globaledumulti.jimdofree.com/>
E-mail: globaledumulti@gmail.com